

フォルテクス大分

・国立大学法人九州工業大学

・佐伯広域森林組合

「フォルテクス大分」コンソーシアム協定書調印式

国立大学法人九州工業大学と佐伯広域森林組合（大分県佐伯市）は、林業現場の労働環境改善に向けた自動下刈ロボット等の開発等を行うことを目的としたコンソーシアム協定を締結し、「フォルテクス大分」を設立します。

コンソーシアム協定書調印式を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

記

日時：平成27年8月24日（月） 13時30分～

場所：九州工業大学飯塚キャンパス 研究管理棟3階 第1会議室
（福岡県飯塚市川津680-4）

調印：国立大学法人 九州工業大学 学長 松永 守央
佐伯広域森林組合 代表理事組合長 戸高 壽生

※詳細は別紙 式次第のとおり

【背景と目的】

国内においては、戦後の拡大造林によって造成された人工林が、いま収穫の時を迎え、主伐に伴う再造林や下刈などの保育作業の大幅な増加が予測されています。

また、林業の現場においては、炎天下での単調・過酷な肉体労働である下刈や、作業員の経験・勘に依存した森林調査など、旧来からの作業が現在も存在しています。

このため、新たな林業就業者の確保に大きな支障をきたしているほか、森林所有者・森林組合・林業事業体の収益性にも悪影響を及ぼしており、このままでは、原木の安定供給や地域の雇用・所得の確保も困難となるおそれがあります。

近年、レーザー技術を活用した測量機器やこれに関連するソフトの低価格化、人工知能をはじめとする各種のロボット技術等の開発等が進んできたことから、これらの技術を林業分野に導入することにより、森林経営の改善、林業の生産性向上、下刈の省力化等の可能性が開けつつあります。

一方で、ロボット関連企業は林業等に関する知見が乏しく、また、市場の確実性が低いために、民間企業等の参入が進まず、結果として林業分野でのロボット技術の導入は遅れています。

このため、年間300haの再造林と1,300haの下刈り作業など森林整備に取り組む国内有数の規模を誇る佐伯広域森林組合と、学内に社会ロボット具現化センターを持ちロボット開発の最前線で研究を行う九州工業大学とが連携して、下刈作業等の労働環境改善に向けたロボット開発等を行う「フォルテクス大分」を設立し、新規就業者の確保、林業関係者の収益の向上を目指す取り組みを進めていきます。

お問合せ先

九州工業大学	林 英治	教授	TEL:0948-29-7775
佐伯広域森林組合	柳井 康彦	事業部長	TEL:0972-54-3326

フォルテクス大分 協定書調印式

日 時 平成27年8月24日(月) 13:30～
場 所 国立大学法人 九州工業大学
飯塚キャンパス 研究管理棟3階
第1会議室

次 第

1 開 会

2 設立趣旨

3 コンソーシアム協定書調印

①国立大学法人九州工業大学 学長 松永 守央
②佐伯広域森林組合 代表理事組合長 戸高 壽生

4 写真撮影

5 主催者あいさつ

①国立大学法人九州工業大学 学長 松永 守央
②佐伯広域森林組合 代表理事組合長 戸高 壽生

6 閉 会

※閉会后 プレス質疑

〈対応者〉

- ・国立大学法人九州工業大学 教授 林 英治
- ・佐伯広域森林組合 事業部長 柳井 康彦